

「こおりやまの米」通信

平成25年5月1日



郡山市
イメージキャラクター
「かくとくん」

Vol.3 「田植～本田初期管理」 次回は6月上旬

編集：郡山市
JA 郡山市 (Tel. 921-0517)
NOSAI 郡山田村 (Tel. 933-3307)
県中農林事務所農業振興普及部 (Tel. 935-1310)
発行：郡山市農作物生産対策協議会 (郡山市営農推進課 Tel. 924-3761)

1 気象予報 東北地方 1か月予報(4月13日から5月12日まで 平成25年4月19日発表)

＜予想される向こう1か月の天候＞ 天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。向こう1か月の平均気温は、平年並または低い確率ともに40%です。

2 田植え

- 低温時や強風時の移植は植え傷みが生じるので、移植は天気の良い日に行いましょう。
- 植え付け本数は1株当たり3～4本とし、苗が転ばない程度に浅く植えましょう。天のつぶは坪当たり70株植えを基本とします。
【深植えは・・・】：下位分げつが発生しにくく、生育が遅れる。
【本数が多いと・・・】：①肥料切れが早くなる。②茎が細くなる。③根も酸素不足で細根となります。
- 移植から活着までの間に低温が予想される場合は、深水管理を行いましょう。
- 弁当肥の施用：活着が悪そうであれば、田植え2日前頃に1箱当たりチッソ成分1g程度を弁当肥として追肥すると活着が良くなります。【チッソ成分1g/箱の目安】・1箱あたり水0.5リットルに稚苗用液肥源(15-19-15)約6g溶かし散布します。高温時は散布をさけましょう。

3 いもち病対策「地域全体で葉いもちの発生を抑制する対応を！！」

(1) 箱施用剤の使用

◆◆◆特定の薬剤に耐性のあるいもち病菌が確認されています。同一系統の農薬の連用は避けましょう。◆◆◆

特に、「MBI-D剤」では広範囲で耐性菌が確認されているので、薬剤をローテーションして使用してください。

- (例1) 箱施用剤で「デラウス剤」を使用した場合は、穂いもち防除の時に本田散布剤として「コラトップ粒剤5」を使用する。
- (例2) 昨年、本田散布剤で「アチーブ粒剤7」を使用した場合、今年は「オリゼメート粒剤」を使用する。

(2) 置き苗の処分

葉いもちの発生源は、補植用の置き苗です。補植作業を行う場合は5月末までには完了し、置き苗は水田内に放置しないようにしましょう。

手間もかかるので、補植は欠株が連続している所だけで十分です。

表：主ないもち病防除剤の種類

		MBI-D 剤	その他の系統
農薬名	箱施用剤	ウィン剤 デラウス剤	デジタルコラトップ剤 Dr.オリゼ剤、嵐剤
	本田散布剤	アチーブ粒剤7	オリゼメート粒剤、コラトップ粒剤5、フジワロン粒剤、イモチエース粒剤

補植用の苗箱にも、箱施用剤の散布を忘れずに！



4 雑草防除「除草剤は遅れずに散布する」

(1) 初中期一発剤使用上の注意 (除草剤散布後7日間は落水しないように！)

- 除草剤の散布時まで、補植は終了させておいてください(除草剤の効果が低下します)。
- 水口・水尻はしっかり止めて、決して除草剤が流失しないように注意しましょう。畦畔の漏水防止もあらかじめしておいてください。
- 散布時は十分な水深(5cm以上)にすると、土の表面に均一な処理層が形成されます。また、深水により雑草の茎葉から成分を吸収し、十分な除草効果が発揮されます。

(2) 万が一雑草が残ったら・・・

○残った雑草の種類によって除草剤を選択し、適期に追加防除しましょう。

ヒエだけが残った場合

クリンチャー1キロ粒剤(ヒエ4葉期まで：1.0kg/10a散布 または ヒエ5葉期まで：1.5kg/10a散布)

ヒエ以外の雑草も残った場合

ザーベックスDX1キロ粒剤 等

【注意】※著しい薬害を発生する場合がありますので、30℃以上の高温が予想される場合は使用しない。

広葉雑草だけが残った場合

バサグラン粒剤(ナトリウム塩) 等

「春の農作業事故防止運動展開中」(4/1～5/31)

- 農機用後部反射材などによる事故予防を。
- 農作業は無理せず「安全第一」で。
～～～目指せ農作業事故ゼロ～～～



この資料は、平成25年4月12日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。

※放射性物質の吸収抑制のため、配布の塩化カリ(20kg/10a)は必ず基肥で散布してください。
※原発事故の放射性物質の影響を受けていると考えられる「べたがけ資材やビニル類」は、水稻の育苗に使用しないでください。

水田の除染を実施された方へ

無償配布された塩化カリは、平成25年作の基肥で必ず散布してください。

(除染実施時に散布したケイ酸カリは、原状回復(除染実施前の状態)が目的であり、放射性物質吸収抑制対策としては、十分ではありません。)

全量全袋検査で放射性物質が検出された水田の土壌分析結果について

1 分析対象水田(全量全袋検査で放射性物質が検出された水田134か所)
旧郡山市、安積町、富久山町、大槻町、三穂田町、逢瀬町、片平町、
喜久田町、日和田町、熱海町、田村町、西田町、中田町

2 土壌分析の結果

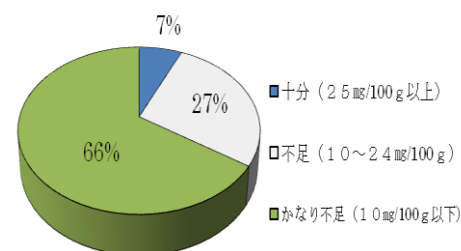
ア 放射性物質の含量

約400ベクレルから3,900ベクレルでした。市の東部と西部の山間部は低く、中央の平坦部は高い傾向にあります。

イ カリの含量と今後の放射性物質対策

玄米から放射性物質が検出された水田の93%(125か所)はカリが不足しております。この内、特に低いと思われる10mg/100g以下の水田が66%(88か所)もありました。カリ含量が低い水田は、自然乾燥が多い傾向です。自然乾燥では、水田から稲わらを持ち出すことが多いため、一層カリが少なくなりがちです。たい肥等の有機質資材の施用及び塩化カリの基肥での施用がとても重要な放射性物質吸収抑制対策です。

玄米から放射性物質が検出された水田土壌中のカリの含量分布



農家の皆様へ

原発事故時に使用していた「農業用被覆資材(べたがけ資材、ビニールやマルチ等)」は、再利用しないでください

農家の皆様には、春の本格的な農作業開始に向け、次の事項に注意して安全な農産物の生産に努めていただきまようお願いします。

- 1 原発事故時、特に平成23年3月から4月頃に使用していたり、屋外で保管していた農業用被覆資材等は、放射性セシウムが付着しているおそれがありますので、野菜の育苗も含め再利用しないでください。
- 2 原発事故以降に購入した新しい農業用被覆資材等は、屋根や樹木等から落ちる雨水、除染に伴い排出される水やほこり等の付着を避けるため、屋内で保管してください。
また、ほ場で使用する場合も土の付着をなるべく抑えるなど、その取り扱いには十分注意してください。
- 3 処分できずに一時保管している農業用被覆資材等は、マジックやスプレー等で目印を付け、原発事故以降に購入した新しい農業用被覆資材等とはしっかり分けて保管してください。
- 4 野菜と直に接しないハウスビニールでも、ビニールに付着した放射性セシウムが水滴を介して野菜に直接落下した場合、葉面吸収されることが試験研究から分かりました。

保管などの際に、汚染されたハウスビニール表面にハウスビニール裏面が接すると放射性セシウムが付着する可能性もありますので、放射性セシウムが付着した可能性があるハウスビニールで、安全が確認できない場合は使用しないでください。